

岐阜城は昔は稲葉山城として知られていた。岐阜城は金華山の大部分を占有していた。城の遺跡は2平方キロメートル以上に及んでおり、遺跡は現在国定史跡として保存されている。元の宮殿や庭園の遺構は山のふもと近くで発見された。山頂の天守は1956年に鉄筋コンクリートで建造復元された。

金華山の最初の城は、1201年～1204年の間に二階堂氏によって建造されたと考えられている。1539年に斎藤道三（1494－1556）が山を支配した後、城塞を築いた。斎藤氏三代に渡って支配したが、道三の孫の斎藤竜興（1548－1573）の時、「岐阜」と改名した織田信長（1534－1582）によって1567年に滅ぼされた。

斎藤竜興を破った後、信長はより大きな岩と当時の最新技術を駆使して城の大部分を再建しなおした。

ポルトガルの宣教師ルイス・フロイス（1532－1597）と公家の山科言継（1507－1579）によると、信長の城は、巧みにデザインされ豪華な城で、みごとに装飾された美しい庭園に囲まれていた。フロイスの言葉では、それは「地球上の楽園」であったと。岐阜城は信長の権力と権威の象徴として建てられ、同時にそれは包囲戦に耐えるように設計された軍事要塞でもあった。信長の孫である織田秀信（1580-1605）が城主であったとき、岐阜は1600年に徳川家康を支援した部隊によって攻撃され破壊された。戦後、石の壁や木造の建造物を含む城の一部は、南へ数キロ離れた狩野城を建設するために再利用された。現在の岐阜城は、1956年に建設された。